

2013年度 第42回 いしかわインテリアデザイン大賞 「大賞」

物件名	かほく市立みずべ保育園		
	所在地	かほく市	
設計者	山下憲三・中城 衛 (株)MAC建築研究所		
	TEL		URL



コンセプト

みずべ保育園は河北潟に隣接し、四季折々の自然、そこに集う人々とふれあえる環境に建てられました。園舎内部には、県産の木材をふんだんに使い、肌触り、視覚にも優しい仕上がりにしました。園舎中央の廊下（みんなの道）は全ての部屋が面するシンボル空間です。わくわくする遊具、お話するベンチ、えほんこーなーなど、まちの路地の賑いを演出しています。みんなの自由な想像力、活発な行動力を育むことのできる保育園としました。

2013年度 第42回 いしかわインテリアデザイン大賞 「石川県知事賞」

物件名	JAIST ギャラリー		
	所在地	能美市	
設計者	松田達・林野紀子 松田達建築設計事務所・りの設計一級建築士事務所		
	TEL		URL



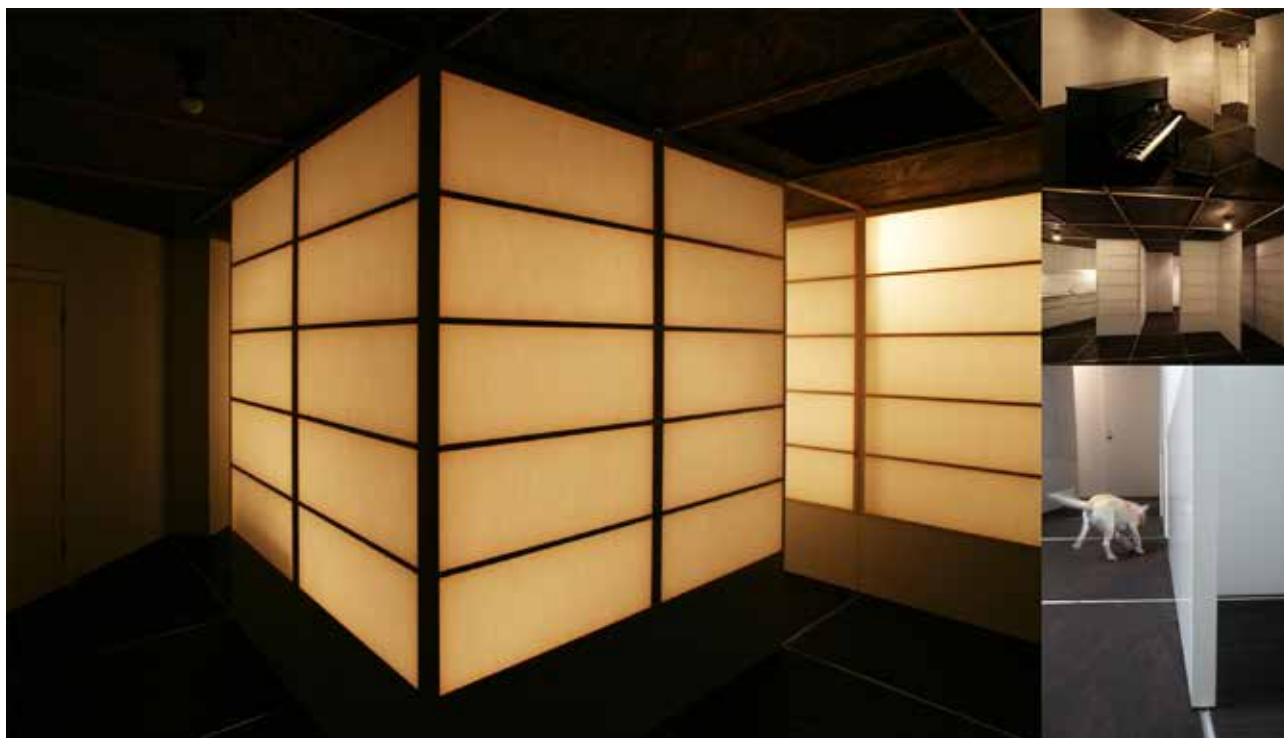
別添

世界有数のパズルコレクションの展示ギャラリー。既存の大学建物のエントランスホールに、多様なコレクションを陳列する展示空間、子供がパズルを自由に手に取って遊べる空間、パズルや資料を保存・整理するための空間が求められた。展示空間の規模的条件と展示のための最適寸法から、300mm 立方のキューブを基本単位として選び取り、それらを5つ組み合わせた「N ペンタキューブ」を基本ユニットとして採用した。N ペンタキューブ 144 個による、8x9x10 の巨大な直方体の箱詰めパズルを想定し、アルゴリズムを用いて解いた。完成形の直方体を12のパーツに分解し、ギャラリー空間に再配置した。展示台や空間の構成要素、照明にもなるこのパズルユニットの素材には、触感や加工性、素材感、コスト、耐荷重から18mmのシナ合板を選び、木目を残して微妙な階調で塗り分けた。木製キューブに混じって、付き板シートを貼ったアクリルキューブ照明が淡い光を放つことにより、変化と暖かみのある空間を織りなし、ガラス張りのギャラリーのなかで、それ自体がひとつの組み木パズルとして見えてくるだろう。プレイルームの子供用テーブルや陳列棚も同様の木材で製作した。

複雑なキューブからなる展示台は様々なパターンの展示方法が可能で、観客はこの曖昧に繋がる隙間を自由に探検しながら、パズルと空間のルールを、身をもって「解く」ことを体験する空間である。

2013年度 第42回 いしかわインテリアデザイン大賞 「金沢市長賞」

物件名	ぼんぼり		
	所在地	金沢市	
設計者	杉山 真 杉山真設計事務所		
	TEL		URL



コンセプト

金沢市の中心部にある、3階建ビルの2階をリノベーションした作品です。夫婦2人暮らしである施主の要望は、就寝の時間帯が違う為、2つの寝室を作ること。老後一人になった時にも対応出来る様なプラン、光熱費を少なくランニングコストがかからないようにして欲しいという3点でした。これから老いを感じる生活を考えているご夫婦に、別々の部屋でありながら、相手を意識でき、暖冷房を効率的に使用出来る住まいの方法を考えました。通常であれば固定した壁をつくり部屋を間仕切りますが、床と天井にレールを1m間隔に設置し、透過性のある障子のデザインを施した可動壁をはめ込むことで、可変性のある部屋を作ることが出来る様に設計しました。夜になるとワンフロアの空間の中に、個室の優しい光が、「ぼんぼり」のように映し出され、落ち着いた空間になります。また、さりげなく部屋の中の気配も感じることが出来ます。夏には、全ての建具を開け放つ事で風の通り道を作ったり、冬には部屋を小さくすることで、暖房が効きやすくすることも出来るようになりました。濃い色に着色された天井と床に格子の様に配置されたレールもインテリアデザインのアクセントになっています。